

■議場多目的利用検討

	1. 固定家具案	2. 一部可動家具案	3. 可動家具案① (全ての家具を収納する)	4. 可動家具案② (家具の一部を収納する)
多目的利用	家具は動かさなくとも、講演会や会議、演奏会等に利用されている例はあるが、席の位置、数は固定されているため利用は限定される。	可動家具を収納すると、100㎡程度のフラットなフリースペースが生まれ、固定家具案と比較して多様な利用が考えられるが、規模的にも、空間的にも中途半端である。	可動家具を収納すると、200㎡程度のフラットなフリースペースが生まれ、多様な利用が考えられる。講演会や会議、演奏会等の他、災害対策本部としての利用を想定している例もある。	可動家具を収納すると、200㎡程度のフラットなフリースペースが生まれ、多様な利用が考えられるが、椅子については収納できないため、活用するか、仮置きスペースが必要。
将来の議員定数変更等への対応（フレキシビリティ）	当初設定の予備数を超える席数増には対応できない。	当初設定の予備数を超える席数増には対応できない。	レイアウト調整により、議場スペースに納まる範囲で、席数増に対応可能。また、席数減にも対応可能。	レイアウト調整により、議場スペースに納まる範囲で、席数増に対応可能。また、席数減にも対応可能。
家具収納スペース	不要。	26㎡程度のスペースが必要。その分他の部屋が削られることになるが、現状プランの調整で対応可能。	60㎡程度のスペースが必要。傍聴席の下部に収納庫を設ける場合、傍聴席床レベルを2.5m程度上げる必要がある（その他の案は0.6m）。その分余計に天井高も必要になり、工事費増となる。また、傍聴席へのアプローチが階段となるためバリアフリー上望ましくない。	26㎡程度のスペースが必要。その分他の部屋が削られることになるが、現状プランの調整で対応可能。
視界の確保（床段差）	床段差あり。 発言者への視界を確保し易い。	床段差あり。 発言者への視界を確保し易い。	床段差なし。 発言者への視界を確保し難い。	床段差なし。 発言者への視界を確保し難い。

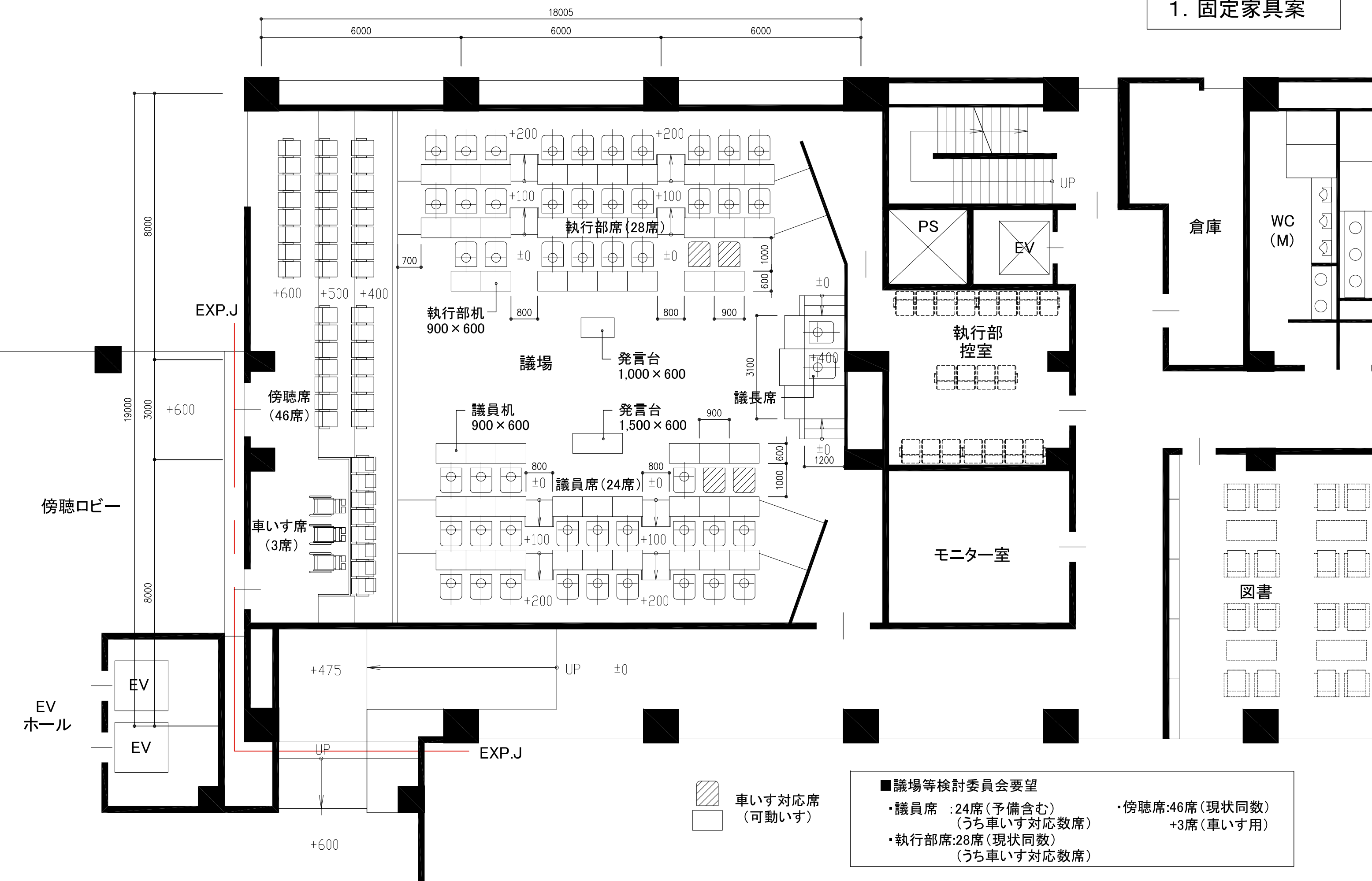
議会のセッティング	特になし。	家具の移動、議場システムの配線接続、動作確認等必要。 事務局への負担増となる。	家具の移動、議場システムの配線接続、動作確認等必要。 目安として、2名で2～3時間の作業となる。事務局への負担が大きい。	家具の移動、議場システムの配線接続、動作確認等必要。 目安として、2名で2～3時間の作業となる。事務局への負担が大きい。
議場システム	有線、無線のシステムがあるが、性能が安定しており、コストも安い有線システムとする。 (無線システムは有線システムの20～30%コスト増) また、LANについてはセキュリティを要する場合は有線とする。	有線システムとし、可動席については、床にジャックを用意して移動の都度抜差しする方式とする。	有線システムとし、可動席については、床にジャックを用意して移動の都度抜差しする方式とする。	有線システムとし、可動席については、床にジャックを用意して移動の都度抜差しする方式とする。
議場らしさの演出	家具デザインの自由度が高く、議会の雰囲気を演出することが可能。また、床段差により、求心性のある議場空間となる。	家具を可動式とし、省スペースで収納できるようにするため、デザインに制約がある。固定式と比較してグレード感が劣る。床段差により、求心性のある議場空間となる。	家具を可動式とし、省スペースで収納できるようにするため、デザインに制約がある。固定式と比較してグレード感が劣る。	家具を可動式とし、省スペースで収納できるようにするため、デザインに制約がある。固定式と比較してグレード感が劣る。
家具の耐久性	特に問題なし。	可動部分が故障する可能性があり、固定式と比較すると耐久性が劣る。	可動部分が故障する可能性があり、固定式と比較すると耐久性が劣る。	可動部分が故障する可能性があり、固定式と比較すると耐久性が劣る。
多目的化によるコスト増 (家具+追加工事費)	<b>1.00</b>	<b>1.02</b>	<b>2.47</b> (1.11+1.36) 階高増による追加工事費を含む	<b>1.11</b>



議会の主な意見	<p>議員全員協議会（平成26年8月25日）での意見</p> <p>◎ 議場の多目的利用の検討について</p> <p>【決定事項】 1・固定家具案とする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議場の多目的利用については、「多目的」への対応を優先するよりは、コスト面、利用する範囲、文化会館などの施設の設置状況や利用状況などを考慮し、現状の議場を基本に有効活用を図る方向がよい。</li> <li>・ 可動式家具については、他市の稼働状況が低いことなどを考慮しても必要性が低いと考える。</li> </ul>
---------	---

■多目的利用議場の事例

	竣工	議員数	議場床	議場家具	多目的利用について
愛知県設楽町	2013年	12名	フラット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 可動式（折畳みタイプ）</li> <li>・ 隣接して家具収納庫あり。但し、実際は収納せず、端に寄せて他用途に利用されている。</li> </ul>	市民へ貸し出しを実施している。机の収納作業等は利用者自身で行う。一般的な会議等に利用されている。
東京都千代田区	2007年	25名	フラット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 可動式</li> <li>・ 傍聴席下部に収納スペースあり。</li> </ul>	多目的利用は行われていない。年に数回庁内の集会等に使われている程度。
千葉県東庄町	2004年	16名	フラット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 可動式</li> <li>・ 傍聴席下部に収納スペースあり。</li> </ul>	議会利用がメインではなく、多目的利用を前提に計画されている。幼稚園の発表会、文化祭の展示、バンドの演奏会等、小規模なイベントに活用されている。
福島県伊達市	2004年	18名	フラット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 可動式</li> </ul>	議会以外の用途にはほとんど活用されていない。
千葉県御宿町	1993年	12名	フラット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 可動式</li> </ul>	

1. 固定家具案

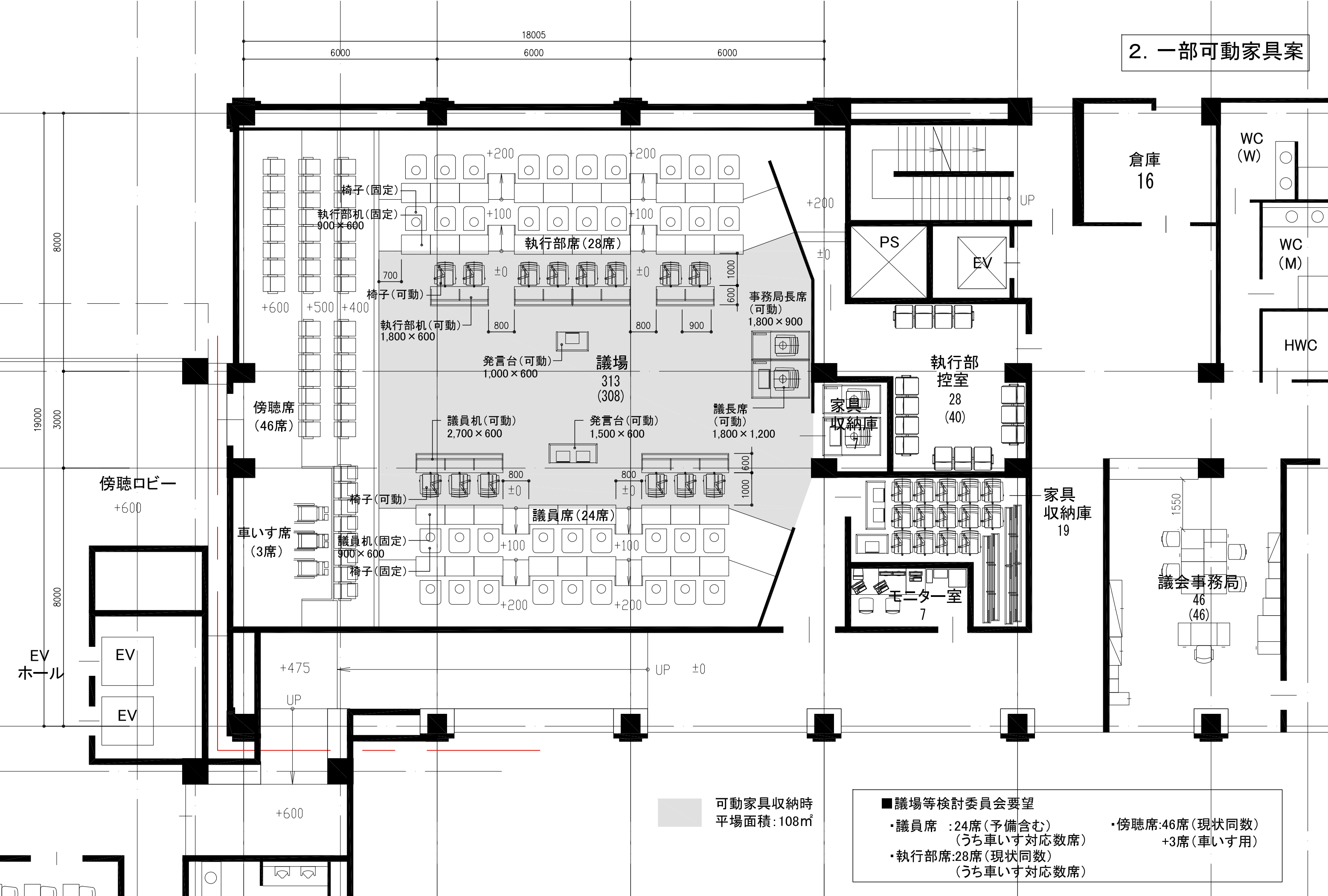


 車いす対応席 (可動いす)  


■ 議場等検討委員会要望  
 ・議員席 : 24席 (予備含む)  
 (うち車いす対応数席)  
 ・執行部席: 28席 (現状同数)  
 (うち車いす対応数席)

■ 傍聴席: 46席 (現状同数)  
 + 3席 (車いす用)

2. 一部可動家具案

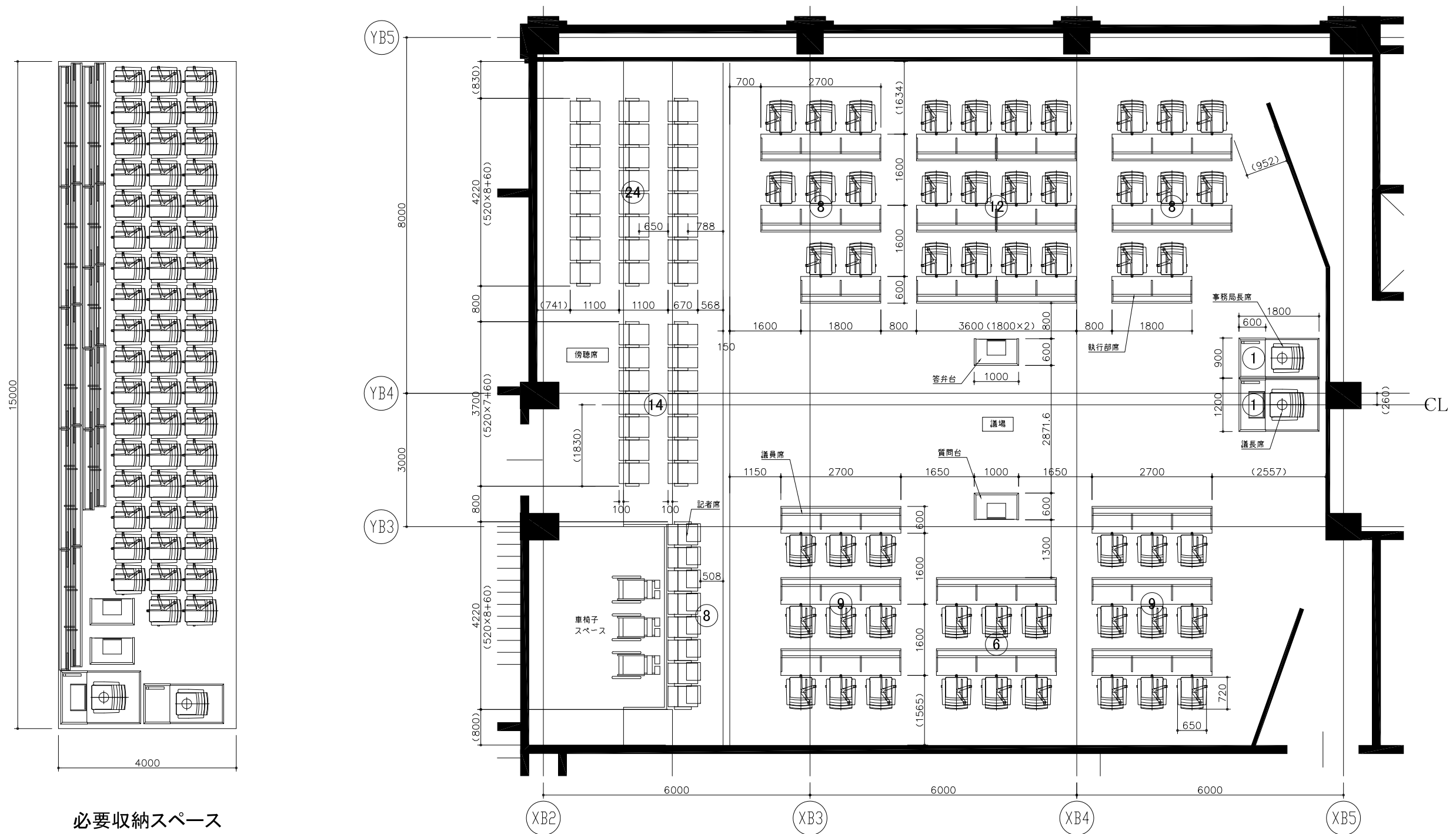


可動家具収納時  
平場面積: 108㎡

- 議場等検討委員会要望
- ・ 議員席 : 24席 (予備含む)  
    (うち車いす対応数席)
- ・ 傍聴席: 46席 (現状同数)  
    + 3席 (車いす用)
- ・ 執行部席: 28席 (現状同数)  
    (うち車いす対応数席)

### 3. 可動家具案①

(全ての家具を収納する)



必要収納スペース

#### ■ 議場等検討委員会要望

- ・ 議員席 : 24席 (予備含む)  
(うち車いす対応数席)
- ・ 傍聴席: 46席 (現状同数)  
+ 3席 (車いす用)
- ・ 執行部席: 28席 (現状同数)  
(うち車いす対応数席)

**4. 可動家具案②**  
(家具の一部を収納する)

